

大鹿村中央構造線博物館たより

138号



2020年11月発行

TEL: (0265) 39-2205
staff69@mtl-muse.com

エコパークスキルアップ講座第四回開催しました！

9/28(月)に、エコパークスキルアップ講座第四回を開催しました。今回は、第三回までの観察会とは場所を変えて、鳥倉キャンプ場から鳥倉山までを周遊しました。

南アルプスの森林は、標高によって生育している樹木の種類が異なることが知られています(表1)。第三回までの観察会会場の私有地は、標高1100m付近で低山帯に位置します。今回の鳥倉キャンプ場から鳥倉山は、標高1700~2000mに位置し、ちょうど山地帯から亜高山帯に変わるあたりになります。鳥倉キャンプ場には、ウラジロモミ(写真1)やミズナラの木が見られましたが、標高1900mあたりまで登ると、シラビソ(写真2)やコメツガが見られるようになりました。



写真1
鳥倉キャンプ場の
ウラジロモミ林(写真中央)



写真2
シラビソ(写真中央)

標高	垂直区分	森林タイプ	主な森林
2,600m以上	高山帯	常緑針葉低木林	ハイマツ群落
2,000~2,600m	亜高山帯	常緑針葉樹林	シラビソ林、コメツガトウヒ林
1,400~2,000m	山地帯	落葉広葉樹林 針広混交林	ウラジロモミ林、ミズナラ林、ブナ林
800~1,400m	低山帯	落葉広葉樹林 常緑針葉樹林	イヌブナ林、モミツガ林、クリ林
800m以下	丘陵帯、台地帯	常緑広葉樹林	アラカシ林、ウラジロガシ林

表1 南アルプスの森林の垂直分布

※南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会
「南アルプス概論 長野県版」(2012)より引用



写真3
ウラジロモミの若枝



写真4
シラビソの若枝

ウラジロモミもシラビソもマツ科モミ属で、若い枝を観察してみると、一見同じように見えますが、枝に線状の深い溝がある方がウラジロモミとのことでした(写真3, 4)。



写真5
鳥倉山頂にて



写真6
イナトウヒレンの花

観察会では、樹木だけではなく、花、岩石、キノコなども適宜観察しながら歩きました。鳥倉山(写真5)周辺は概ね緑色岩からなりますが、鳥が池のあたりは、蛇紋岩の分布域があります。ここで、南アルプス南部の蛇紋岩地にのみ生息するキク科植物イナトウヒレンの花を見ることができました(写真6)。(宮崎)

参考：南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会「南アルプス概論 長野県版」(2012)
URL: https://www.minami-alps-br.org/img/data_center/data/10_1_MAgaiyou_nagano.pdf